

# 建 築 家

# 通 信

2020.3.31  
vol.121



公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会  
JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>

E-mail [info@jia-nagano.com](mailto:info@jia-nagano.com)

## 原稿は進まなかった

福島加津也+富永祥子建築設計事務所/東京都市大学 教授 福島 加津也



木の構築 工学院大学弓道場 (撮影:小川 重夫)



学生卒業設計コンクール



文化講演会

当日の朝、私は久しぶりに新宿から特急あずさに乗った。目的地の松本までは2時間半もかかるので、溜まっていた原稿を進めようと思っていた。列車は特急だけあってすぐに八王子を過ぎ、普段は見慣れない山地に入っていく。美しくも険しい山並みと、山々の間に埋め込まれたような集落を見ていると、意外なほど早く松本に着いてしまった。原稿はあまり進まなかった。

久しぶりの松本は、透明感のある凛とした空気が心地よかった。今日は私のレクチャーの日である。会場は、私の師匠である伊東豊雄が設計したまつもと市民芸術館だ。身に余る光栄である。会場に入ると、私のデビュー作の設備設計を担当してくれた古い友人が準備をしていた。今は故郷の松本で設計事務所を主宰しているという。とても嬉しい再会である。講演のテーマは、近年の私の興味から「工学と美学」とした。会場には、たくさんの人が集まっていた。懇親会の後は、ホテルに戻って原稿を進めようと思っていた。しかし、現実には長野の建築家たちと街へ繰り出し、楽しい夜を過ごしてしまった。原稿は一行も進まなかった。

次の日は、卒業設計コンクールの審査である。高校の作品はとても新鮮であった。地元の名産が鯉やイチゴだからその形をした建築をつくらうという、高校生の形の考え方に関心を持った。表層的な形の引用は、その分かりやすさゆえに地域に浸透している。このようなポストモダンの力は、今の

日本でこそ再考に値するのかもしれない。専門学校の作品は高校生より少し大人で、そこには確かな製図能力と模型技術があった。社会性を意識し始めている作品も見られた。その解決方法はほほえましいものであるが、その幼さ故に直接的に心に届いたような気もした。大学は信州大学1校の出展だが、そのレベルは非常に高いものであった。ていねいなリサーチから地域に根差した課題を選定し、建築空間まで連続して考えられていた。プレゼンテーションの受け答えもしっかりしていた。

2日間を通して、長野の建築家たちの熱意と献身が印象に残った。私は数年に一度しか作品がないため、日本で最も仕事の少ない建築家(かもしれない)というありがたい称号を頂いている。事務所は東京にあるが、実際には無人島に住んでいるようなものだ。このような私に、なぜ長野の建築家たちはレクチャーを依頼したのだろう。私は彼らに何を伝えることができたのだろうか。そのようなことを考えていると、帰りのあずさはすぐに新宿についてしまった。雷に打たれたというわけではないが、頭を離れない体験を頭の中でしばらく反芻したい、というときはだれにでもあるはずだ。原稿を進めることはあきらめていた。



2月22日・23日の両日に、第14回建築祭を行いました。今年度は松本市美術館で開催中の企画展イベントで多目的ホールが使用できず、文化講演会はまつもと市民芸術館オープンスタジオで、長野県卒業設計コンクールは松本市美術館ギャラリーでの開催となりました。



ギャラリートーク

文化講演会は、工学院大学弓道場・ボクシング場で建築学会作品賞を受賞されている、福島加津也さんの「工学と美学」と題する講演に、約100名の聴講者が参加しました。武蔵工業大学で建築を学び、東京藝術大学の大学院を修了した福島さんの経歴から、工学と美学の間を揺れ動く建築に関する、興味深い内容の講演でした。続くアフタートークパーティーには、信州大学、上田情報ビジネス専門学校の学生も参加して、福島さんやJIA長野県クラブ会員と建築や卒業設計作品など、熱心な会話が交わされました。

23日の長野県卒業設計コンクールは、福島さん、JIA関東甲信越支部の渡邊さん、JIA群馬地域会の小林さん、JIA長野県クラブの荒井

代表、また松本市美術館の小川館長にも加わって頂き審査が行われました。他県からの審査員の方々は、高校生、専門学校生の卒業設計を目にする機会は初めてとの事でしたが、総評として身近なテーマに真摯に取り組む姿勢に高い評価を頂きました。大学生の作品は、今年は特に高いレベルで作品が伯仲しており、審査員の間で熱心な議論が交わされました。各賞を受賞された学生も今回は受賞を逃した学生も、卒業設計をスタートに、社会人あるいは進学して更に建築への興味を深く活躍される事を期待します。また、例年同様、展示会場を訪れた方の一般投票による松本市民賞を松本市美術館より授与頂き、建築文化へのご理解に感謝いたします。

最後になりますが、建築祭のパンフレットチラシに誤りがあり、御迷惑お掛け致しました事をお詫び申し上げますと共に、来年度以降もJIA長野県クラブの建築祭にご協力頂きますよう、各学校・関係者の皆様をお願い申し上げます。



高校の部 受賞者

## 長野県学生卒業設計コンクール 受賞者の声

### 大学の部 金賞 松本市民賞

信州大学工学部建築学科4年 糸岡 未来

長野県卒業設計コンクールにおいて金賞と市民賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。私は今回の卒業制作で、今自分の住んでいる長野県に関わる提案をしたいと考え、調べる中で県内に多くの廃校になった木造の小学校校舎が残っているということを知りました。木造小学校校舎は特有のデザインがあり、地域で愛着を持たれる建物であることが多い一方で、誰もが魅力を感じるそのデザインを活かすことができれば地域外にもインパクトを与える有益な活用が可能なのではないかと考え、南木曾町旧妻籠小中学校を対象とし改修提案を行いました。本制作では、調査を設計という形に落とし込むこと、またそれを図面と模型という形で人に伝えることの難しさ、技術の未熟さを実感しましたが、調査に協力してくださった方々、指導してくださった先生、先輩等たくさんの方々のおかげでこの場で発表することができました。これからも自分が建築を通して何ができるのかを考えながら、精進して参りたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。



大学の部 受賞者・前列左から3人目が糸岡さん

### 専門学校の部 金賞

上田情報ビジネス専門学校 建築学科インテリア環境コース 宮崎 香那

この度は長野県学生卒業設計コンクールで受賞できたことを、とても嬉しく思うと共に、プロの方々から評価をしていただくという貴重な機会を頂けたことを心から感謝申し上げます。私の卒業設計の原点は「知らなかった」という思いからでした。計画地である東御市はワインの産地として有名ですが、私は卒業設計を行って初めてワイン産地だったことを知りました。こんなに素晴らしい点があったのに知らなかったということに自分自身驚きましたし、他にも知らない人がいるのではないかと、そう思うようになり、人々のつながりの希薄化をテーマに、東御市の魅力をより多くの人に知ってもらうことを裏テーマとして計画しました。作品を制作していく中で、設計の難しさ、相手に自分の考えを伝える大変さを実感しました。今回のコンクールで私は考えも技術もまだまだ未熟だと改めて感じましたが、日本の建築界に貢献できるよう、研鑽を積んでいきます。この度は誠にありがとうございました。



専門学校の部 受賞者・前列中央が宮崎さん

### 高校の部

### 専門学校の部

### 大学の部

金賞	木村 海心 (長野工業高等学校)	裏道と本 普光寺大門における発見の場
銀賞	塩澤 望夢 (飯田OIDE長尾高等学校)	“お堀の交わり”
銅賞	市岡 尊 (飯田OIDE長尾高等学校)	ブリーズベリゴ ～たかき農村交流センターリニューアル計画～
奨励賞	小林 美友 (飯田OIDE長尾高等学校)	× コウサ ～地域と人の混在～

金賞	宮崎 香那 (上田情報ビジネス専門学校)	ぶどうの香りに誘われて
銀賞	金田 明璃 (上田情報ビジネス専門学校)	諏訪湖を渡る湯の華
銅賞	斉藤恵太郎 (上田情報ビジネス専門学校)	佐久を知る ～合宿で地域とつながる～
奨励賞	小林 史弥 (上田情報ビジネス専門学校)	夢を抱いて

金賞	糸岡 未来 (信州大学)	妻籠舎 木造小学校校舎の意匠を活かす廃校舎の改修
銀賞	竹内 正彦 (信州大学)	映画館と地域の叙事詩 ～地方都市における映画館の再編を核とした商店街の活性化～
銅賞	杉山 翔太 (信州大学)	「農村多肢化」 ベトナム チュエンミー社 ゴ村を含むカムチャイネットワークのアップデート
奨励賞	齋藤 香奈 (信州大学)	食育から始まる輪 学生用アパートの空室を活用したシェアキッチン
奨励賞	ターリグ ムーン (信州大学)	若者の将来を築く建築 学生と社会人が同居する複合型集合住宅の住まい方
奨励賞	高橋 真由 (信州大学)	公園 3.0 時代へ 均質に造られた街区公園の未来のはなし

開催したイベント  
 9月6日(金)・・・仕事を語る会②  
 10月26日(土)・・・まちなみウォッチング  
 11月20日(水)・・・仕事を語る会③  
 12月1日(日)・・・冬のセミナー  
 1月15日(水)・・・地域材を考える会②  
 2月22日(土)・・・建築祭 文化講演会・ギャラリートーク  
 2月23日(日)・・・建築祭 長野県学生卒業設計コンクール

今後の行事予定  
 4月17日(金)・・・2020年度通常総会

編集後記  
 今号は2月に開催された「建築祭」の特集しました。日々の設計活動に歴史や伝統といった日本の建築文化をどのように応用すればいいのか、正直わからないことも多いのですが、福島さんの講演をお聞きし、手がかりのようなものを頂いたように思います。それと同時に丁寧に歴史を読み解き、観察力や洞察力を養うことも大切だと痛感しました。話は変わりますが、昨年県内を襲った台風19号の災害における被災者支援建築・住宅相談が現在も実施されています。被災者の生活再建に向けて、職能をいかし、息の長い支援をしていきましょう!.....竹内祐一  
 皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

JIA  
 公益社団法人日本建築家協会  
 The Japan Institute of Architects  
 編集人/竹内 祐一 発行人/荒井 洋  
 発行所/JIA長野県クラブ  
 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内  
 TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303  
 http://www.jia-nagano.com  
 E-mail info@jia-nagano.com